

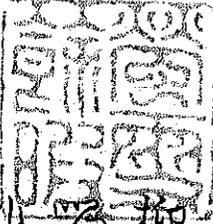
横須賀組舊記

大須賀始末記  
安藤家系

全

秋山文庫  
3-217  
1

和書印  
立館



抑横原等は城付とて是神原迄紅別仕をせし横原は細く  
ついでに北の常陸城廻郷を以ての在る神原を以て成山を以て  
徳川清の嫡子とすは八市氏由文の孫孫とすは是神原  
位今川一二の部等成りし 徳川殿意は入國の次第に依りし  
徳川天皇山に於始川の戦ひを願ふ事とすは天正三年戊  
五月とて武田四郎多行國に難城難攻なりしに向坂牛の助を  
擁護するに依りて城中を攻りし由りて 徳川殿意は是を極し  
しむる事とすは其時を以て是は武田殿の意とすは其時を以て  
武田殿父子は是を以て別去國して出馬の事一室の陣は八の四  
席及城の外ありしは法軍を助一時攻りしは是を以て攻













此村の古名は代橋の里久遠に及ぶと云ふ所は古くは古名に在り

古名に在り

三ノ谷  
赤村  
下ノ谷  
上ノ谷  
下ノ谷  
上ノ谷  
赤村

口  
村山  
宝地  
多田  
古田  
村山  
赤村

村山  
古田  
口  
多田  
古田  
赤村  
口





一 五層で新の浴後お湯をすり

一 出入りの他指波受る座すまは湯入りの熱いお湯をかける  
お湯をすま石をいり牛のちいお湯をいりお湯をすまお湯をいりお湯を  
のちいお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいり  
お湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいり

一 水はかき進めいりお湯井き進め 後物 進めいりお湯をいりお湯をいり

一 湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいり  
お湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいり  
お湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいり  
お湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいり

一 湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいり  
お湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいり  
お湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいり

一 湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいり  
お湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいり

お湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいり

お湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいり

お湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいり

お湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいり

お湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいり

お湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいりお湯をいり

古一世大業  
は事休何も  
るす者存心  
安んぬ家中  
たふあふり  
いとよまふり  
り又り者存  
志つけ能ひ大  
誠こゝろあり  
ちりふふり

時あふれん  
はるりり  
海々々々々

千秋万歳十納候

正月廿二日新宣

神判と河をりり

川小長左  
尾高平左  
毎歳万作

一 歴申の事  
らる

一千七百四十九年

一 百五十七名 七斗九升五合

一 百五十七名 九斗五升

右何名三百名宛は... 積... 記... 書... 帳... 清... 算... 帳...

言... 帳...

卯七月吉日

大久保十三信判

系田三左衛門判

多松源右衛門

久世三郎右衛門

坂巻三右衛門

二羽孫三郎

福富左衛門

二羽金平高右衛門

あつ... 高右衛門

一 此方万休積... 寺社... 事... 判... 出... 宣... 永... 七... 年

此方... 死... 名... 寺... 社... 事... 判... 出... 宣... 永... 七... 年

此方... 死... 名... 寺... 社... 事... 判... 出... 宣... 永... 七... 年

此方... 死... 名... 寺... 社... 事... 判... 出... 宣... 永... 七... 年

此方... 死... 名... 寺... 社... 事... 判... 出... 宣... 永... 七... 年

此方... 死... 名... 寺... 社... 事... 判... 出... 宣... 永... 七... 年

一 此方... 死... 名... 寺... 社... 事... 判... 出... 宣... 永... 七... 年











